富士山を汚さん!



目次

* 新聞記事

* 現状分析

* 問題意識

* 政策提言

新聞記事

昨年6月、世界文化遺産になった富士山。登録は、保全対策を整えるという「宿題」つきだったが、改革は進まない。改善策の提出期限まであと1年半。登山家の野口健さんは「このままでは登録が取り消されてもおかしくない」と心配する。長年、ラジオ局などと一緒に行っている清掃活動に同行した。

ラジオを通じて全国から募集した約100人のボランティアとともに向かったのは、山梨県山中湖村の富士山麓(さんろく)。県道から林道に入って5分ほど歩くと、突然、林道脇に深さ5メートルほどの**ゴミ**の「崖」が現れる。もとは道の高さまで不法投棄されたゴミが埋まっていたのを、野口さんたちが掘り返した現場だ。

大量のタイヤや配管などの建設廃材、古い銘柄の酒瓶や缶、電線.....。次々に土の中から出てくる産業廃棄物や家庭ゴミを目の当たりにした40代の女性は「富士山のゴミの話は半信半疑で聞いていたけど、こんなにあるとは」と絶句した。

「これが遠くからは見えない富士山の裏、『B面』です」。シャベルで崖を掘りながら、野口さんは説明する。

富士山のゴミに関心を持ったのは1997年。エベレストで出会った外国の登山家から「あそこはひどい」と聞かされたことがきっかけだった。帰国して早速向かうと、山から「白い川」が流れているのが遠目に見えた。山小屋から垂れ流されるトイレットペーパーだった。

以来、仲間とバイオトイレの設置や登山者への啓発を続け、5合目から上は改善しつつある。だが、2006年の調査では、山麓の1500カ所にゴミが埋まっていることが発覚した。 この日の作業は2時間。大きいゴミだけでなく、ガラス片やビニールひもなども丹念に拾う。鳥や動物が誤って食べると命を落とす恐れがあるからだ。掘って拾って、掘って拾って。地道な作業が続く。「俺、富士山のゴミ拾いをして一生終わるんじゃないか」。手をとめ、野口さんは笑う。 作業を終えると「収穫」は可燃ゴミ1トン、がれきを含む不燃ゴミ5・15トンに上った。だが、これだけ拾っても、ゴミの崖の風景は拍子抜けするほど変わらない。「ボランティアの活動も大事だが、それ以上に、自治体や、官庁、政治家が動かなければ問題は解決しない」

ゴミに加えて、ユネスコから指摘されたのが、宿泊施設やトイレの許容範囲をはるかに超える登山者の多さだ。5合目から上の登山客は1シーズンで30万人以上。だが、入山規制には、観光への悪影響を心配する地元の反発が強い。野口さんは、人を「分散」していくことが一つの解決法になるとみる。

「登山客は5合目から上に集中する。でも、風景はそんなに面白くない。意外とそれより下がいいんですよ」

翌朝、お薦めの登山ルートに案内してもらった。山梨側の3合目から5合目までのこのルートは、シラビソやコメツガが生い茂る。4合目周辺に広がる苔(こけ)のじゅうたんが一番好きな場所だという。「まるで屋久島。雨が降った後は本当にきれい」。5合目から上は「人の渋滞」が続くが、ここで他の登山客と行き交うことはほとんどない。

「富士山をいろんな場所や角度から見られる、周りの山脈を歩くコースがあってもいい」と野口さんは提案する。「観光客を減らすのではなく、時期やエリアを広げればいい。知恵を出し合えば、地元が賛成できる環境政策を作っていけるはずです」

新聞記事(続き)

■野口の目 登山客、減らさず分散する方法を

世界遺産への登録の話を聞いた時、「あちゃー」と思いました。ゴミ処理や入山規制など 「世界遺産になるためにやらないといけない」と呼びかけてきた課題がふっ飛んじゃうと思っ たからです。

案の定、国内はお祝いムードー色。今の富士山の状態で評価されているかのような雰囲気で した。

でも最近になって、保全対策という宿題が出ていることが少しずつ知られるようになってきて、「万一、登録を取り消された時、自分が犯人になりたくない」というプレッシャーからか 行政も動き始めた。世界遺産が改革の背中を押すことになればいいな、と今は思うようになり ました。

一番必要なのは入山数のコントロールです。5合目から上にある山小屋やトイレが1シーズンに対応できる人数は20万人強とされています。それに見合った規模にするには、入山者を現状から10万人は減らす必要があります。

地元も富士山の環境政策を否定しているわけではなく、観光にダメージが生じると思って反対している。生活だって大事。私は地元経済への影響も考え、5合目までの登山鉄道を建設することを提案しています。そうすれば、夏の観光客が減っても、冬季の客を呼び込める。夏に集中している客をオールシーズンに広げ、5合目から上に集中している客に他の散策ルートを紹介する。減らすのでなく分散していく仕組みが必要です。

産廃の不法投棄などの問題は多くの山で起きている。日本最高峰の富士山で解決できれば、 その手法は全国のモデルケースになるはずです。

2014年7月28日朝日新聞デジタル

現状分析

記事要約

* 富士山は保全対策を整えるという条件つきで世界文化遺産に登録された

・しかし、ゴミの不法投棄が後を断たず、 登録取り消しが危惧される

・ 宿泊施設等の許容範囲をはるかに超える 登山者が訪れている

富士山について

* 標高3776mの日本の最高峰





* 2013年6月に世界文化遺産に登録される (登録正式名称は「富士山一信仰の対象と芸術の源 泉」

* 古くから日本の象徴として知られ、芸術作品の題 材になることも多い

世界遺産登録への経緯

1992年から世界自然遺産への登録を目指すが...

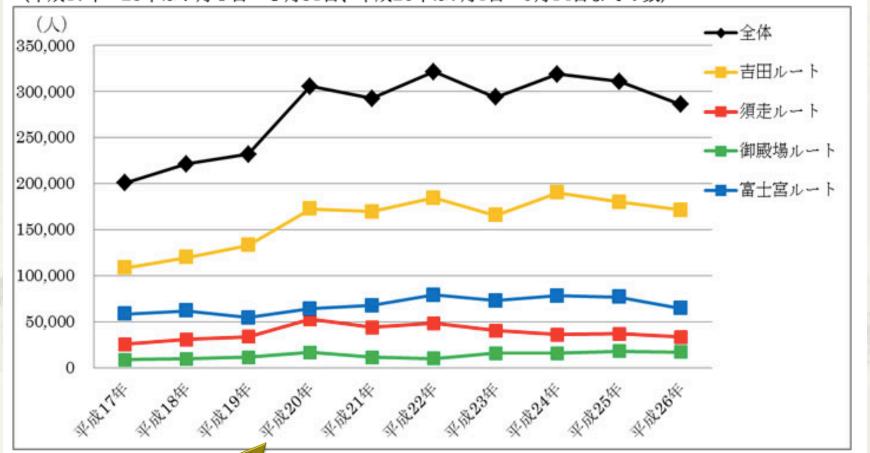


ゴミの不法投棄などが問題となり、世界文化遺産へ方 向転換する __

2013年6月に世界文化遺産に登録されたが、20 16年2月1日までに環境保全策を提出するという条件付きでの登録である

富士山の登山者数の推移

図1:富士山の全登山者数及び各登山道別登山者数の推移 (平成17年~25年は7月1日~8月31日、平成26年は7月1日~9月14日までの数)



富士山の混雑状況

* 2013年 混雑日ベスト5

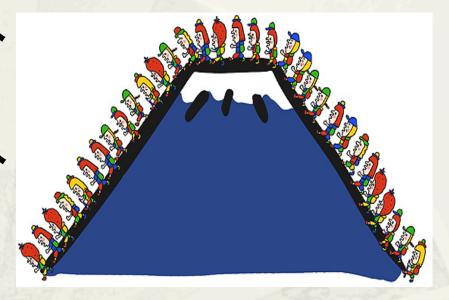
1. 7.13 (土) 10,040人

2. 7.26 (金) 9,691人

3. 8.2 (金) 9,556人

4. 7.19 (土) 8,807人

5. 7.12 (土) 8,540人



(環境省統計)

http://www.camp-outdoor.com/tozan/fujisan/time.shtml

登山道の渋滞





2005年8月7日(日) 午前5:10 ご来光後の大混雑の様子http://www001.upp.so-net.ne.jp/fujisan/fuji-jam.html

富士山の登山者のゴミの現状

富士山には基本的にゴミ箱 が設置されていない





http://blogs.yahoo.co.jp/digital_devil0611/archive/2013/5?m=lc&p=2

さらに....

世界遺産登録で登 山客が急増



山のマナーや知識の無い人、初心者が増加してゴミが増える可能性も

富士山のトイレ問題

トイレ事情

平成9年頃からトイレ整備開始 →それまでの"垂れ流し"状態は改善された

- ・チップ制(協力金)
- 100円~300円

登山者・観光客の増加でますます整備にお金 がかかると予想される

現状の対策

①入山料の導入

〈入山料導入の経緯〉

2008 登山者数過去最多、『入山料』の議論が持ち上がる

2013 静岡・山梨両県で入山料の試験徴収実験

7/25-8/3 9:00-18:00 原則1000円を任意で徴収

2014 **富士山世界文化遺産協議会で本格導入を正式決定** 7/1-9/14 24時間 1000円**(それ以上も可)を任意で徴収**

①入山料の導入

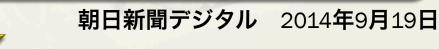
- >入山料導入の結果(静岡・山梨両県)
- ▶ 2013年の試験導入

3万4327人 3412万9822円/10日間 (協力率 山梨68%、静岡54, 3%)

朝日新聞デジタル 2014年9月18日

▶ 2014年の正式導入

15万9496人 1億5776万4752円 (協力率 山梨56%、静岡41, 1%)



目標額2億7900万円の56.5%

②マイカー規制

▶富士山5合目まで車で登ることができるが・・・

駐車場が大混雑 数kmに渡る路上駐車発生



マイカー規制! 対象外(バス・タクシーなど)を除く全車両を通行止めにする政策

2マイカー規制

マイカー規制の効果

* 規制のない平日の登山者が増え、ある程度の登山者の分散化がみられた

* 規制のない休日に大混雑

登山者数の抑制にはつながらない登山者の分散効果も一部に留まる

問題意識

問題意識

- ▶ "富士山ブーム"で登山者はますます増加
- →諸施設の許容範囲を超えている

- ▶ 自然環境・登山環境の悪化
- →世界文化遺産の登録取り消しも懸念される

問題意識

富士山の"過剰利用"によって 様々な問題が起こっている

登山者の安全 + 富士山の環境保全のため 登山者数のコントロール/分散が必要

政策提言

登山予約制の実施

①富士山の登山を予約制にして、 一日の入山者数を制限する。

②入山料徴収を必須にし、それによって得た収入で富士山の環境保全政策を拡充する

入山料の使い道

トイレの維持管理・拡充

予約制にかか る人件費 ゴミ運搬・処理費用

富士山の保全 活動 パトロール・ 救助活動や設 備の拡充

試算

富士山の1シーズンあたりの許容量→約20万人

静岡・山梨両県が定め協力金の目標額 →2億7900万円 (朝日新聞デジタル2014年9月19日)

2億7900万円÷20万人=1395円 一人1500円徴収すれば十分!

政策のメリット

混雑の解消・・・登山者数の安定・分散 化により登山環境が向上

入山料の確実な徴収・・・トイレの整備・ゴミ処理など環境保全政策を拡充で きる

政策のデメリット

好きな時に登山ができない可能性

周辺の観光業への悪影響 (観光客の減少など...)

入山料が登山者にとって負担となる

まとめ

- 1諸施設の許容範囲を超えている
- →予約制にすることで登山者数を許容範囲 内に抑制し、安全で快適な登山環境に

- 2自然環境の悪化
- →登山者数の減少・分散化により環境への 負荷が軽減される
- →環境保全政策などを拡充する

参考文献

- * http://www.asahi.com/articles/asg9k4T0YG9kUTPB00L.html 朝日新聞デジタル
- * http://www.fujisan-net.jp/data/article/1417.html富士山 NET
- * http://www001.upp.so-net.ne.jp/fujisan/fuji-gomi.html 富士山のごみ問題
- * http://ja.wikipedia.org/wiki/富士山 ウィキペディア
- * http://sourinn.com/942.html 世界遺産登録への経緯
- * http://www.pref.yamanashi.jp 山梨県公式HP
- * http://www.fujisan-climb.jp/useful/toilet.html 富士登山オフィシャルサイト